

しゃらりん

13

2007/2



一つの命が生まれるために
世界中の命が
その命のために
場所を空けてくれるのだ

と聞いた

そう

わたしたちは

生まれるときに
わたしの命の場所を
つくってもらったのだ

目次

contents

同朋大会ニュース 第二号	3
親鸞の鼓動・四 「今井雅晴さんに聞く・下」	4
教区アラカルト 第9組同朋大会	8
子どもたちとやってみよう／世界の国々	10
アトリエしゃらりん	11
一文字募集のお知らせ／しゃらりんちゃん	12

命

文 久世見証
書 畠中幸代

會意形聲。口と令との合字。令は又聲。令は王者の發する號令。本義は王者が號令を發して人民を使役する意。故に口と令を合せて、其の義を表はす。

『諸橋大漢和』より

同朋大会ニュース 第二号

ポスター入選作品発表！



→平野 萌さん
『あみださんと赤ちゃん』



→小松 仁さん
(画・岡本和男さん)『ごめんなさい』

第37回大阪教区同朋大会
“いのち”あるものよー同期として出会うー
2007年5月19日(土)午後1時30分グランキューブ大阪
真宗大谷派大阪教区・難波別院



→駒井 翔太さん
『翔け！命のたまて箱』

同朋大会実行委員会では同朋大会のポスターを公募いたしましたところ、たくさんのご応募をいただきました。ご協力まことにありがとうございました。

その中より、先日2006年11月13日の実行委員会全体会において、全実行委員による投票の結果、平野萌さんの作品がポスター掲載作品として選出されました。また、その他にも入選作品が2点選ばれ、第37回同朋大会賞として1万円相当の図書券がそれぞれに送られることとなっています。

平野萌さんは第27組願随寺住職・樽井直敏さんのお孫さんで、小学3年生。この作品は「阿弥陀さんがみんなと一緒にいのちが生まれたことを祝っているところ」だそうです。

ご承知のとおり、すでにポスターとして全寺院に配布され、またチラシとしても今回『しやらりん』とともに配布いたしております。ご寺院での宣伝、広報にお役立ていただければ幸いです。

また、ポスター・チラシの追加を希望の方は、ご遠慮なく教務所までお知らせください。

(同朋大会・広報小委員会)

同朋大会特設サイトがオープン

大阪教区公式サイト「銀杏通信 (<http://www.icho.gr.jp>)」内に、教化委員会ホームページ部のご協力をいただいて、同朋大会特設サイトを開設いたしました。

ホームページの特色を生かし、リアルタイムで同朋大会の情報をここでお伝えしていければと思っております。

また、チラシや会場までの地図もこちらからダウンロードできるようになっております。

アドレスは次のとおりです。みなさまのアクセスをお待ちしております。



<http://www.icho.gr.jp/bodo/>

親鸞の鼓動

七百五十年の響き

四

前年度、聖典講座では、『恵信尼文書』について」と題して2回にわたり今井雅晴先生（筑波大学名誉教授）にご講義いただきました。その際に『しゃらりん』編集部が行ったインタビューを前号に引き続き掲載いたします。

親鸞聖人御一家の生活は…

——先生は『消息』の分析から、恵信尼は京都の人だとおっしゃっております。しかし、よく言われてきたのは、恵信尼は越後の人である、という説ですよ。越後の豪族の娘とか越後の聖集団の尼だったとか。

今井 第二次大戦前は、両方の説が取り上げられていました。しかし最初に申し上げましたように、第二次世界大戦後は親鸞聖人は地方から京都

へ攻め上ってくるという姿が歓迎されました。そういうことで奥さんは越後の豪族の娘であったほうがよかつたんだろうと思います。

平安時代からそうなんですけども流人の場合には、一日に塩と種籾を一定量支給されるのです。いつまでかという、流された年の翌年の秋までです。塩は自分が使用する以上の分量が支給されます。その余分は売って着物に替えるとかします。

聞くに

下

教務所



今井雅晴さん

聞き手＝平野圭晋・澤田見・吉内利彦 写真＝大阪

籾は春先に播いて、それで自分で耕して田植えをして、稲を作れということです。秋になったらお米ができてるだろうから、そこから先は自給自足となります。

しかし親鸞聖人に農耕ができるはずはありません。ではどうされたのか。

親鸞聖人は凶悪犯ではない一種の政治犯です。教養もあるし、日野家貴族の息子でもあるし、地方の豪族は歓迎したに違いありません。そして婿入りした。それが越後の豪族である三善家だったのではないかと言われていました。

しかし近年は、これは前からあった説なんです。親鸞聖人の伯父さんの一人の日野宗業が、親鸞聖人が流される一ヶ月前に、越後権介に任命されたことに注目しています。遷任ようにんといまして、実際には現地に行きません。しかし京都にいるにしても、親鸞聖人御一家は越後の国司の甥ですから、越後の国府の役人たちは一家を大事にしたに決まっています。

ですから、聖人一家の生活はどうだったかという問いは解決できてしまいます。はっきり言ってしまうよ。厳しい生活を自分に科しておられたかどうか、それはわかりませんが。

—— 関東へ移られた親鸞聖人御一家の生活はどのようなものだったんでしょう。

今井 聖人は関東では孤独ではなかったのです。関東には法然のお弟子さんがけっこういるんです。

よね。例えば宇都宮頼綱は栃木県の南部の大豪族で、法然上人の直弟子です。稲田もその領地です。

—— やはり家族がある以上、食いつぶされるだろうなっていうとなかなか動けないと思うんです。そっちに行っても経済的にやっていけないなど思われたんでしょうし、実際に経済的にやっていけないわけですよ。

今井 宇都宮という豪族の援助と、それから稲田こつらのしょうの東に小鶴荘という常陸の国で二番目か三番目に大きな荘園があります。これが恵信尼さんの実家の勤め先である九条家の領地なんです。恵信尼さんの実家の三善為則は関白の九条兼実の家司けいし（家老）の役割です。自分の実家に手紙を出そうと思ったら稲田からでしたらすぐ出せます。稲田から小鶴荘まではたった数キロしかないんですよ。つまり一時間なり二時間歩いて行けば、小鶴荘の役所へ行けます。そこから実家に経済的な援助を求めることもできます。

当時の貴族は「貴族仲間」っていいまして、貴族は貴族同士、非常に大事にします。

だから親鸞聖人は関東で自分の財産はないけれども、法然上人のお弟子さん、恵信尼さんの実家の援助が期待できたんだろうと思います。ひとりならともかく、夫婦二人と子ども何人かいて、なんにもなかったら生活できませんよ。いくら昔でも。それはやはりある程度、目算があつたんじゃないかと思えます。

——親鸞聖人が京都へ帰ると言い出された時は、
恵信尼さんはどうされたんでしょうね。

今井 わたしは恵信尼さんは親鸞聖人と一緒に京都へ帰られたとは思っていません。関東に残っていらしたと思います。そしてやはり、越後に親から領地をもらっていたに違いないです。でなければ越後に行きませんよね。

——関東へ残ってその後、ご家族だけが直接、越後へ行かれたと。

今井 ええ。関東の御門弟にしましても、親鸞聖人にお金を送っています。一方では京都、他方では残った恵信尼さんたちの生活費を負担するのは、大変だっただろうとわたしは思うんですね。それで、残された恵信尼さんたちは越後へ行かれた。越後から稲田へ年貢を送ってもらうのも大変です。越後へ行ってしまったほうが、恵信尼さん一家は生活もしやすいし、関東の御門弟にも迷惑かけないという思いが働いたのではないかと、わたしは思っています。推測ですが。

恵信尼さんは聖人と一緒に京都へ帰られた。家族を壊す必然性はなかったと、何年前の研究者はおっしゃっていますけども、それは違うだろうと思っております。当時女は男についていかなくてはいけないという論理はありません。それに娘の小黒女房や息子の信蓮房はもう二十代半ばです。それぞれの家族や生活があったはずですよ。

関東から親鸞聖人は京都へ帰られて、ご家族や

恵信尼さんと「別れた」と文章に書いた時、わたしは離婚したというつもりはなかったんですけども、「別れた」なら離婚かと（笑）。いや離婚ではなくって、単に別れた、生活を別にただけで

新しい親鸞聖人像の息吹。

——夫婦の関係もそうですが、歴史を見るといっても、今の視点が変わると変わっていくという部分がありますよね。

今井 事実はもちろん変わりません。しかし、変な例かもしれませんが、第二次大戦終了までは神武天皇はいたっていうことになっていました。それで教育も行われていました。しかし現在実在を声高に言う人がいるのでしょうか。

時代が変われば歴史の見方も変わります。変わるものだと思います。現代社会に合わせてどういう歴史的事実をどのように取り出すかっていうことを、私たちは考えるべきだろうと思っているわけです。

——始めにおっしゃられた、今の時代に合わせた親鸞像が必要だということですね。

今井 ええ。親鸞聖人はひとりではなかったとい

す。「別れた」という言葉を使うとすぐ夫婦離婚と思う人がいるということがわかり、言葉遣いに気をつけなければと思いました。

う観点を入れるべきであると私は強く思っていますね。

——ひとりで動いていらつしやるイメージがあります。実際は幼い子どもも含めた家族が一緒にいるのですよね。生活をされてたつていう観点ですね。

今井 教学面から見たら、子どもがいようがいまいが関係ないかもしれない。しかし実際にはどういう教えを説かれたかというのは、そのような生活の実感から出てきたこともずいぶんありだつたと思うんです。今のわたしたちが生活を切り離して見てしまったら、親鸞聖人の布教についての実感を感じることができないだろうと思えます。

——親鸞聖人であっても、生活の中で矛盾を感じたり葛藤がおありになったでしょうね。

私たちなんてそういうことに振り回されればな



しですけど。

今井 やはり生活していく上においては、その時代の制約を超えるわけにはいかない部分があるわけです。どの時代の人たちの毎日の生活にも、理想的に語られている真宗教とは違う部分の宗教生活もかなり行っていたんじゃないでしょうか。

でも、わたしは昔からのご門徒たちはそういう生活の中に親鸞聖人の教えを生かしていたと考えるべきだと思っています。

——先生ご自身の生活において親鸞聖人の教えが生かされていることはありますか。

今井 わたしの生きる理念は、やはり親鸞聖人なんですよ。

例えば、報謝という考え方がありますね。感謝して生きる。生活ではそうあるべきだろうと思います。

——どういう部分で親鸞聖人をいただこうと、それはそれでいいのではないのでしょうか。

現代社会で親鸞聖人を視野に入れて生きよう、その教えに一部だけでも賛同して生きよう、ということがもっと広がってもいいと思っています。

——最後に、史料から学ぶというところに戻りたいと思うのですが、例えば歴史の事実を、恣意的にピックアップして自分たちの思うような歴史観を作るということがありますね。親鸞観もそうでしょうが、昨今の歴史解釈の問題ですとか。そうした現状、社会状況を見て、なにか思われるところはありますか。

今井 やはり、現代社会にどういう課題があるかという実感のところから、過去を振り返って何をどう見るか考えねばなりません。現代の問題をどう捉えるかってところを普段から鍛えておかない

と、非常に恣意的なことになってしまっているのではないか、と思っています。

わたしの方針としては、まず自分の身近なところからどういう課題があるのかを見極めて、次に社会全体の中で考え、そこから親鸞聖人に何を期待するかというところを固め、その上で外に向かっていくというふうにしております。

——私たち一人ひとりに、今を見据えた自分なりの問題意識が必要なわけですか。そうでなければ新しい親鸞像の息吹も芽生えてこないということですね。

今井 いろいろな人が、自分自身の課題を明確にした上で、では親鸞聖人はそれに対してどうされたか、そういうことを考えていたらどうでしょうか。それをどこかで集約していけば、今後親鸞聖人に何を学べるか、さらに、浄土真宗の歴史に何を学べるか、ということが明確に出てくるのではないかと思います。

——ありがとうございました。

今年度、今井先生には、2月14日(水)午後6時から教区教化センター会館研修室において「善鸞事件について」をテーマにご講義をいただきます。皆さまお誘い合わせの上、ご来聴いただきますようお願いいたします。

第九組同朋大会

第9組（藤政順三組長）で同朋大会が、「親鸞聖人」をテーマとして、2006年11月26日、豊中市ホテルアイボリーにて開催されました。雨風の悪天候にもかかわらず、予想以上の参加者で椅子をあわてて増やすという嬉しいハプニングもありました。

講演される講談師の旭堂南北師の写真入りポスター、チラシ等すべて手作り、また、参加費は無料としましたが、チケットは参加人数把握のため作成するなど工夫を凝らしました。当日は、勤行本・ボールペン（アンケート記入にも必要）・坊守方手作りの栞を記念品とし、大好評でした。ビデオ上映用のプロジェクトは教区教化センターからお借りし、開場設営用品の看板、三具足、ビデオカメラ、アンケート用紙回収箱にいたるまで全て持ち寄り、手作りの大会でした。そのような手作りで暖かみのある同朋大会の一端を実行委員の方の報告や感想文でお届けします。

副組長 看景寺住職 豊島了雄さん

教区同朋大会が3年に一度の開催となり、教区教化事業の一環として組同朋大会が推奨され、第9組も初めての試みとして組同朋大会を計画致しました。

同朋大会実行委員会（各寺住職・坊守・門徒代表）を36名で組織し、広報委員会（ポスター・チラシ・参加券の作成等）、運営委員会（タイムスケジュール・会場設定等）、総務委員会（講師選定・総合計画等）の3小委員会を作り、1年間の準備期間を経て、試行錯誤の中開催となりました。ご門徒の一番参加しやすい日時・場所を設定し、

2006年11月26日（日）午後2時より、豊中市内ホテルアイボリーにて、当初の予定人数を越える250余名の参加者のもと盛会裏に開催することができました。

内容は、式典（正信偈同朋奉讃式）、ビデオ上映（20組作成）、講演（旭堂南北師による講談）で、途中休憩を入れ、2時間30分の大会となりました。ビデオ、講談は親鸞聖人について楽しく興味深く語られ、参加者を退屈させない内容に、後のアンケート結果でも好評を頂きました。

組内寺院と門徒が協力し合い、同朋大会が開催された事に大きな意義があったと思います。最後に今大会にご協力賜りました関係各位に、心からお礼を申し上げます。第1回大阪教区第

9組同朋大会開催の報告といたします。

誓願寺坊守 渡邊委久子さん

2006年11月26日（日）豊中ホテルアイボリーに、第9組の同朋、同じ志を持った者同士が、2011年の「宗祖親鸞聖人七五〇回御遠忌」に向けて「親鸞聖人」をテーマとし、その教えを改めて聴こうと集いました。

会場に集う顔、初めての顔、知った顔。皆さん本当に明るく生き生きと、同朋と共に来場なさる。いつもお会いする顔でも、この会場ではなんだか



新鮮！受付の私は、無事終わるのだろうかと初めての大会に緊張と期待が入り交じりながらも、皆さんの楽しそうな顔を見て嬉しい気持ちになりました。

やがて、開場。ビデオは、聖人の御一代がゆっくりとわかりやすく流れました。お念仏を次の世代にも伝えてまいりましょうと。

講談では旭堂南北師が「講談という芸能は、昔は講釈といって江戸から明治にかけては盛んであったが近年衰退。現在大阪では、旭堂という一門だけで、全部で10名。つまり私は10本の指に入る講釈師だ。(笑)」と独特の口調で語られる。ご自身も本願寺派の門徒であり、「宗祖親鸞聖人七五〇回御遠忌は、50年に一度の大法要、石にしがみついても生き抜いて……。」と、同朋に大きな笑いと決意をもたらしました。

「御同朋、御同行」この大会を御縁として信仰に目覚め、聴聞することが真宗人の生活そのものではないだろうか、との組長のお言葉を同朋の皆様と共に改めて深く実感させて頂くことができました。さらに第9組という身近な同朋大会を通して気付いた、身近なことの大切さ、積み重ねの大切さを今後活かしていきたいものです。ありがとうございました。

昭徳寺総代 大久保良平さん

親鸞聖人 始めあり終あり去年今年かな
始めなし終なし去年今年かな

「随想」継続は力なり

大阪教区第9組では懸念の第1回同朋大会が開催され盛会裏に終わった。昨年2月第9組教化委員会では組長のリーダーシップで実施が決まりました。御同朋の立場に立つて如何に好感度を得るか、

今やらずしていつできるかと、次第に熱気に包まれた。委員会では、「和氣藹々」「阿吽の呼吸」で検討された。これも住職、坊守、門徒会役員の平素の信頼関係の絆の深さの賜である。第9組に大きな足跡を残した。私はこの機会に反省したい。

一、勤行について「脚下照顧」する

平素凡夫の私はやもすると先祖の冥福を祈ったり私事を願ったりで終わっていないか。推進員養成講座で谷本先生から今日より「佛につかまえられる」の一言が忘れ難い。佛に信じられている自分との対話をどれだけしているか新しい年を迎え己に目覚め更に幅広く信心を深めたい。

この世は自分を探しに来たところ。

河井寛次郎

二、聞法について「自己観照」する

第9組同朋の会の会員として参加しているがマンネリ化していないか。ご縁で結ばれお互いに心を照らし合い、己の生活意識を真剣に見つめ正信の道を歩み聞法求道するを望まれていると思ふ。新しい自己発見が喜びとなる二度とない人生日々新たに精一杯生きたい。

心にひびくことば(引用)

初春や仰せのいのちただきて
生かさるいのち尊しけさの春

合掌



番外編

ヨッチーの や子どもたちと つてみよう!

ウルトラジエスチャゲーム

ジエスチャー・ゲームのパロディ版
このゲームは声を出してもOK。
ただし、言っていない言葉は
「ジュワツ」だけ!
制限時間は3分間!

子どもたちを2つのグループに
分けて対戦しましょう。
答える側を大人にすれば
もつと盛り上がる上に
交流もグッと進みます。

そして、パスのときは
やっぱ「このポーズ」!



ブータン王国はインドの北、ネパールの東側にある小さな国です。人々の顔立ちはわたしたち日本人にそっくりで、その風俗、風景、人々の笑顔にはなにか懐かしいものを感じます。しかし多くの日本人がその場所さえ知りません。近くてはるかに遠い国。それがブータンなのです。

●首都：ティンプー

●人口：約218万人(2004年)

●制度：1907年ブータンを統一したワ
ンチュク朝成立以降、ブータ
ンは国王を中心とする絶対君
主制であったが、近年の政治
改革により立憲君主制へと移
行しつつあります。2006
年12月、第5代ジグミ・ケサ
ル・ナムゲル・ワンチュク国
王が即位。前国王のころより、
次第に開放的な政策を取りつ
つあり、以前ならば民族衣装
の着用がすべての国民に義務
づけられていましたが、近年
では若者の間で洋装も見られ
るようになっていきます。

世界の国々 —ブータン—

れによって何を、何を失う
のかなど、日本でははるか昔
に忘れ去られてしまった問題
に気づかせてくれる国でもあ
ります。

●宗教：チベット仏教が国
教。チベット仏教の宗派のひ
とつ、ドウルク派が勢力を持
つ。「ゾン」と呼ばれる地方
行政組織は寺院と一体化して
おり、チベット仏教は政治的
にも、国民の生活にも深く根
付いています。

国の豊かさを計るものさしに国民総生産
(GNP)ではなく、国民総幸福量(GNH)と
いう概念を提唱したり、近代化・産業化を
抑えた政策を実施したりして注目を集めて
います。近代化(欧米化)とはなにか。そ

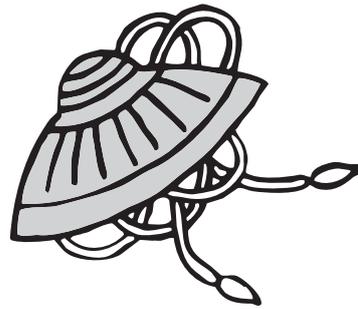
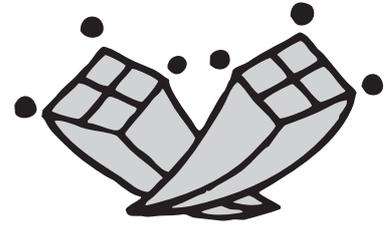
●禁煙国家：2004年12月より、世界初
の禁煙国家となり、煙草の販売が禁止され
ました。国外から持ちこむことはできませ
が、100%の関税が課せられます。

●民族衣装：男性は日本の丹前に似た
「ゴ」、女性は一枚の布を身体に巻き
付け帯を締める「キラ」という民族
衣装を身につけています。



アトリエしゃらりん

画・畠中晃子



しゃらりんちゃん

バレンタインデー 編



『しゃらりん』表紙漢字一文字大募集!

『しゃらりん』の表紙をあなたが薦める漢字一文字で飾りませんか?

早いもので2002年8月1日（創刊準備号）に産声をあげた教区教化委員会機関誌『しゃらりん』は5年目を迎えます。本誌の顔でもある表紙は、当初、教区基本テーマに対するさまざまな声を掲載し、次に各寺の『寺報』などに活用できるような仏具のイラストを中心に、教区教化活動の一助となるよう取り組んできました。

編集子としてはさらに皆さまと共に歩めるよう「あなたの声を『しゃらりん』に!!!」と参加型機関誌を試みます。それは、本誌の表紙作りから参加していただく皆さまから漢字一文字とそれに対するコメントを募集し、漢字一字に込められている思いや、印象等を掲載し、読者の皆さまも表紙を見てうなづいたり、笑ったり、時には考え込んだり、話し合ったり、思いを語ったり……。

つきましては是非とも「あなたの声」をお届けいただき、紙面上に参加いただきますようあなたの印象に残る漢字一字をご応募ください。お待ちしております。

※応募方法などの詳細は同封のご案内をご覧ください。

発行日：2007年2月1日

発行所：真宗大谷派大阪教務所
大阪市中央区久太郎町4-1-11
TEL06-6251-4720

発行人：五辻信行

編集： 第4組 常楽寺・久世見証
第9組 浄園寺・難波美千子
第10組 是三寺・北川浩三
第12組 清澤寺・澤田 見
第17組 法観寺・廣瀬 俊
第27組 願隨寺・平野圭晋
第27組 信證寺・吉内利彦
第27組 浄宗寺・畠中兎子

<http://www.icho.gr.jp/shararin/>

編集後記

◆新しくなった表紙の「一命」と言う言葉は、編集部が投票で

決まったのですが、その添え文を書かれた方曰わく、その文を「小学校の時、誰から聞いたのかわからないけれど、ずっと心に残っていた言葉」だったそうです。

◆今、イジメや近親者の殺人が目立つ中、このように、「心に残る言葉」を伝えられる人が必要なのではないでしょうか。

◆お寺に来てくださるのはご年配の方がほとんどですが、できるなら、今子育てをされているお母さんや社会での指導者の立場にいらっしやる方々にも来ていただきたいです。

◆そして、人生の先輩方とお話したりご相談されり、お説法を拝聴したりして、「心に残る言葉」を見てきて子ども達や後輩達に伝えていけるような場所にお寺がなればいいのかなあと思いました。(H)